



浦島伝説

令和4年10月25日

第22号

合唱コンクールは何を残したか



10月22日(土)、合唱コンクールをマリソウエーブで行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ステージ近くの座席の不使用や、一座席分の間隔を取ることなどの対策を行いました。このため、昨年度に引き続き、無観客での実施となりました。保護者の皆様にはライブ配信やDVD・ブルーレイでの視聴となり、大変申し訳なく思っています。

大変難しい審査でした。どの学年も、各学級の合唱に大きな差はなかったと思います。順位・得点よりも、練習を積み重ね、ステージに立ち、学級全員が心を合わせて一つ

の曲を歌ったことに一番大きな意味や価値があったと思います。

学級全体としてではなく、みなさん自身はどうだったでしょうか。学級の合唱の数分間に、自分の今現在のベストが出せたでしょうか。学級の仲間と心を合わせることができたでしょうか。合唱の成功のために、自分の感情を抑えることができたでしょうか。

テストや部活動の大会、学校・学年行事など、一定の時間をかけて何かに取り組んだときは、結果よりも、その過程(かてい)を振り返ることが大切です。結果だけを見て、嬉しい、悲しい、良かった、残念・・・ではなく、結果が良かったなら、それまでの取組の何がどのように良かったのか。悪かったなら、何がどのように悪かったのか考えてみる必要があります。

これまでの合唱練習を振り返ってみてください。みなさんはこの合唱コンクールに向けての練習を通じて多くのことを感じたはずですよ。歌が苦手な人は、練習自体が苦痛だったかもしれません。伴奏者や指揮者の人は、他の人達とは違った不安や苦しみがあったと思います。学級での練習は、うまくいかないほうが多かったはずですよ。また、練習をめぐって、学級の中ではさまざまなトラブルが起こったはずですよ。実際に殴り合いのケンカになった人もいます。しかし、学級の一人一人が、これらの不満やトラブルを乗り越えて一つの曲を合唱したからこそ、美しいハーモニーが生まれたのです。練習の過程であった様々な出来事をしっかり見つめて振り返り、今後の自分の成長に生かしていくこと。それが、合唱コンクールに向けてこれまで積み上げてきた練習を無駄にしないことにつながるのです。

もう一つ。みなさんが合唱コンクールで歌った曲はいつまでも頭と体に残ります。将来、何か落ち込んだときや悲しいことがあった時に、ふっとその曲を口ずさむことがあるでしょう。繰り返し何度も何度も歌ったことで、みなさんの心と体の中にいつまでも忘れられない記憶として刻み込まれたはずですよ。それは心の豊かさにつながり、生涯の宝物になるのです。「心が変われば、行動が変わる。行動が変われば、習慣が変わる。習慣が変われば、人格が変わる。人格が変われば、運命が変わる」という有名な言葉を残した、アメリカの哲学・心理学者のウィリアム・ジェームズは、次の言葉も残しています。

「人は幸せだから歌うのではない。歌うから幸せになるのだ」

2学期の大きな学校行事、合唱コンクールは終わりました。次に、3年生は3月10日(金)卒業式、1・2年生は3月24日(金)修了式という、この1年間のゴールに向かって歩き出さなければなりません。2学期も、もう折り返し点を過ぎました。合唱コンクールの「熱」を、ステージ上だけで終わらせることなく、みなさん一人一人の、各学級の新たなスタートを切るエネルギーにしてください。

県新人大会の記録

陸上(10月15日)

女子トラックの部 2位

男子1年 100m 3位 資延 侑梨弥

女子共通四種競技 3位 山地 愛子

女子共通 4×100mリレー 3位 山口 有愛琉

山下 稀歩理

松村 みそら

畑中 優利